

日本棋院横浜栄支部  
10周年記念  
「囲碁王国」30年の足跡



【栄区囲碁連盟】



【栄区囲碁普及会】



【楽碁会】



【日本棋院横浜栄支部】

平成29年10月1日  
日本棋院横浜栄支部

発刊にあたって

日本棋院横浜栄支部は今年設立 10 年の節目を迎えます。日本棋院発行の囲碁雑誌「碁ワールド」2017 年 2 月号「日本棋院支部と会員のコーナー」に横浜栄支部の活動が次のように紹介されています。

“横浜栄支部が拠点とする横浜市栄区は鎌倉市に隣接する横浜市で 2 番目に小さい人口 12 万人の緑豊かな街である。当支部は現在の会員数 230 名で全国 2 位であり、ここ数年その地位を守っている。現在栄区には囲碁関連 4 団体があり「栄区を囲碁王国に！」を合言葉に協調し合い活動している。全国的に囲碁愛好家の減少が言われる中、栄区では 30 年間に創り出したこれらの団体が役割を分担、協力し合い囲碁ファンを増やしている”

確かに横浜栄支部は設立以来会員数を順調に増やしており、神奈川県下の囲碁界では勿論のこと日本棋院からも高い評価を得ていますが、これらの成果は一朝一夕に出来上がった訳ではなく、先人たちの熱い思いとたゆまぬ努力の集積の結果であることを忘れてはなりません。奇しくも本年は「囲碁王国」の嚆矢となった栄区囲碁連盟が発足してから 30 年の記念すべき年を迎えております。この記念すべき年に、「囲碁王国」栄区の囲碁界が歩んできた 30 年の足跡を整理し、日本棋院横浜栄支部設立 10 周年記念誌として後世にその記録を残しておきたいと思っております。

本記念誌の発行に際しましては、栄区囲碁連盟、栄区囲碁普及会及び楽碁会の多大なご協力を頂いたことは云うまでもなく、正に栄区囲碁関連 4 団体が結集して作り上げた記念誌であることを申し添えておきます。

平成 29 年 10 月 1 日

日本棋院横浜栄支部  
支部長 佐野 嘉男

# 目次

1. 栄区囲碁連盟の創立	・・・ 1
1) 戸塚区より分区独立した栄区に新しい囲碁連盟を	
2) 栄区文化協会の一員として活動	
3) 地域交流囲碁大会：交流の輪を広げよう	
2. 栄区囲碁普及会を作る	・・・ 3
1) 栄区内に囲碁をもっと普及させたい	
2) 級位者を対象とする囲碁教室を開設	
3) 段級位認定会で初段を目指せ（そして後進の指導を）	
4) こどもを中心とした囲碁大会	
5) 情報紙「さかえの石音」の発刊	
3. 普及会囲碁教室を卒業した人達のために	・・・ 6
1) 楽碁会を作る	
2) アドヴァンスト囲碁スクールを開校	
4. 日本棋院横浜栄支部を設立	・・・ 7
1) 日本棋院公認の認定大会を地元で開催したい	
2) 日本棋院とのパイプをより太く	
3) そして会員数は全国第2位に	
4) 沢山のプロ棋士を招聘	
5. 国際交流囲碁大会	・・・ 9
6. 海外遠征	・・・ 11
7. 神奈川県下の囲碁団体について	・・・ 13
8. おわりに	・・・ 14

## <資料編>

1. 横浜市栄区「囲碁王国」30年のあゆみ
2. 歴史を繋いできた人達
3. 栄区囲碁普及会の組織図
4. 栄区が招聘したプロ棋士
5. 神奈川県囲碁団体組織図
6. 山本正氏の神奈川新聞記事

## 1. 栄区囲碁連盟の創立

### 1) 戸塚区より分区した栄区に新しい囲碁連盟を

横浜市栄区は今から 31 年前の 1986 年（昭和 61 年）に戸塚区が 3 分割されて出来た新しい区です。当時横浜市のおよそすべての区に囲碁連盟ができていて、当然戸塚区にもありました。その戸塚区囲碁連盟に所属していた栄区在住の秦奎四郎氏が、新しい栄区にも囲碁連盟を作ろうと同じく戸塚区囲碁連盟に所属していた同志などに呼びかけたのが栄区囲碁連盟発足の発端でした。発足に拘わった同志とは、市田勝一・大野栄・木村陽弘・小見山満・佐藤日出夫・関戸松雄の諸氏です。

創立総会は翌 1987 年（昭和 62 年）6 月に本郷地区センターで開催され、初代会長に須賀義夫氏、副会長に安田重夫氏（棋楽会々長）、幹事長に秦奎四郎氏、会計には市田勝一氏と木村陽弘氏が選出されました。本部は須賀会長が経営する碁会所（現本郷台囲碁クラブ）で、碁盤と碁石は旧戸塚区囲碁連盟が所有していたものを分割して頂いてきたものでした。しかし保管スペースが狭いため半数を碁会所に残りは秦幹事長宅に保管し、囲碁大会を開催するときは碁会所分を連盟の運搬担当者が、秦幹事長宅分は幹事長ご夫妻が自らの車で会場まで運び込むという、大変なご苦労を重ねてようやく開催するという有様でした。

以来 2000 年（平成 12 年）まで 13 年間須賀会長／秦幹事長時代が続き、2001 年（平成 13 年）に市田勝一氏が囲碁連盟の 2 代目会長に就任しました。市田勝一氏は文化協会の副会長として人望を集めていましたが、2002 年に文化協会からの補助金を利用して友人であった矢沢功巳氏が経営する古民家の一角に碁盤・碁石を保管するラックを作り、囲碁大会を開催する際には赤帽（小規模運送業者）を使って運送する仕組みを作りました。運搬担当は永い間牧野博氏（現囲碁普及会会長）が務めました。その後囲碁連盟会長は佐野嘉男氏→久保発喜氏→三間修司氏とリレーされて現在に至っています。

### 2) 栄区文化協会の一員として活動

栄区文化協会は、1996 年（平成 8 年）2 月 24 日に各部門の有志が発起人となり栄区の文化を担う団体として結成されました。初代会長は郷土史家として著名な光明寺住職北条祐勝氏で、囲碁は創作・教養部門に所属することになり、栄区囲碁連盟と個人の囲碁愛好家が数名参加を申し込みました。文化協会発足時は個人会員を認めることとしていましたが、その後諸般の事情から会員資格は団体に限ることになり、個人として申し込んだ方達が団体を結成して文化協会の一員となることを合意しました。そのとき出来たのが「栄碁クラブ」です。従って囲碁部門は二つの団体が所属することになりましたが、両団体にだぶって加入している人も多く、窓口は囲碁連盟ということでスタートしました。現在は両団体を統合した呼称「囲碁協会」として登録されています。囲碁連盟第 2 代会長の市田勝一氏は栄区囲碁連盟創

立の発起人の一人であると同時に、栄碁クラブを結成した中心人物でもあります。

文化協会は秋の芸術祭と春の文化祭を年中行事としていますが、芸術祭には横浜市からの補助金が各団体に配分されますので、各部門とも芸術祭に合わせて1年の成果を盛り上げています。囲碁連盟も栄区民を対象とした「囲碁まつり」を開催すると同時に、プロ棋士を招聘して指導碁・大盤解説などを実施し、終了後はプロ棋士を囲んで懇親会を開催するなど楽しいイベントとして定着しています。また囲碁部門は文化協会の役員にも歴代多数の人材を供給しており、前述の第2代会長市田勝一氏と第3代会長佐野嘉男氏が栄区文化協会副会長を務めました。現在も藤田剛氏（囲碁連盟幹事）が文化協会副会長の任にあたっています。

### 3) 地域交流囲碁大会

発足以来囲碁大会を中心に活動してきた囲碁連盟ですが、囲碁大会はどうしても段位者が中心となり級位者が参加しにくい傾向にあったため、第3代会長佐野嘉男氏が栄区在住・在勤の囲碁愛好家が幅広く参加できるアイデアとして、地域対抗の団体戦形式囲碁大会を作ることを発案しました。そのためには栄区内の囲碁愛好家がどう分布しているのか調査する必要があり、栄区の7つの連合町内会（豊田・笠間・小菅ヶ谷・本郷中央・本郷第三・上郷東・上郷西）毎に連盟の幹事が担当を決めて囲碁の活動状況を調査することとしました。その結果各地域で活動する囲碁クラブや囲碁の同好会の実態がある程度把握できたので、地域交流囲碁大会開催に向けて新藤昭二幹事長を中心に熱心な論議が重ねられ、2004年（平成16年）6月10日に第1回「地域交流囲碁大会」を開催する運びとなりました。

地域交流囲碁大会は、5人1組の団体戦であること、囲碁連盟に加入していなくても出場できること、級位者も段位者に交じってチームを構成できること、地域の名譽を背負っていること等が新鮮だったと見えて成功裡に終了することができました。その後新藤幹事長の後を引き継いだ計倉英秋幹事長が毎回少しずつ改良を加えることにより、またその後の滝澤隆幹事長が更に工夫を重ね、現在では囲碁連盟主催の大会では最も人気度の高い大会として評価されるまでになりました。

#### 【市田勝一さんの思い出】

市田さんは不思議な魅力の持ち主である。既に80歳を超えていたと思うが、川向うの長尾台から毎日のように自転車でやってきては、お焼きの古民家「矢沢家具店」にどっかり腰を据えている。そこに囲碁連盟の碁盤と碁石のラックを作り、囲碁連盟の打合せをやり、仲間と杯を重ねるなど、まるで仙人のような存在だった。

のちに囲碁連盟で活躍した役員のお多くは市田さんの一言で決まったと云って良い。とに角市田さんに指名されるとイヤとは言えない何か不思議な魔力があるのだ。これからは女性に入って貰う必要があると口説かれたのが安田テイ子さんだ。マジョンナ（マドンナ+魔女）と自称して長い間栄区の囲碁界を支え続けてくれている安田さんも市田さんの一言で決まったのだ。

今は大好きだった古民家の奥にできた「横浜永久の杜」に静かに眠っており、墓前には誰が供えるか大好きだったワンカップがいつも供えられている。きっと大きく花開いた栄区の囲碁界を見下ろし、喜んでくれていると思う。（YS記）



## 2. 栄区囲碁普及会を作る

### 1) 栄区内に囲碁をもっと普及させよう

日本棋院普及指導員の鶴田郁夫氏が、子ども達に囲碁を普及させることをご自身の使命と心得て、自ら開発した6路盤（パチリコ）を用いて区内の全ての小学校を訪ね囲碁の普及活動に励んでいました。

鶴田氏の活動を知った栄区囲碁連盟第2代会長の市田勝一氏が、会長に就任して間もなく“囲碁の普及は囲碁連盟が当然やらなければならない仕事である”として鶴田氏を応援しようと副会長であった佐野嘉男氏に呼びかけ、当時神奈川県会議員で日本棋院普及指導員でもあった関口正俊氏の事務所を訪ね相談したのが囲碁普及会設立のきっかけでした。関口氏も二人の申し出に異論はなく早速鶴田氏を呼び4人で基本的な方針を決めました。2001年（平成13年）9月のことでした。人事は、会長＝鶴田郁夫（会計兼務）、副会長＝市田勝一・関口正俊、会計監査＝佐野嘉男とし、会員募集については囲碁連盟の幹事と栄碁クラブへは市田氏が、棋楽会（鶴田・佐野両氏が所属）へは佐野氏が呼びかけ参加者を募ることとしました。また、当面の経費を賄うため年会費1000円・賛助会費2000円を徴収することとしました。その結果35名（囲碁普及活動参加会員＝18名、賛助会員＝17名）の賛同が得られ、同年10月正式に「栄区囲碁普及会」として発足しました。

### 2) 級位者を対象とする囲碁教室の開設

2003年（平成15年）10月関口正俊氏が第2代囲碁普及会会長に就任しました。同氏は、「はまっ子」と「クラブ活動」への普及活動に加え、「栄こどもとおとなの囲碁大会」を開催して栄区内の学校の棋力レベルを認定することとしました。第1回大会（2004年7月）に参加し認定状を貰った人の中から“もっと強くなりたい”との声が聞かれ、子どもだけでなく大人も参加できる囲碁教室を開設していこうという方針が打ち出されました。

2004年（平成16年）10月に本郷地区センターに囲碁教室を開設し、入門コース（囲碁を全く知らない人）及び初級コース（11級まで）としてスタートしました。そしてその翌2005年4月から10級～1級を対象とする「上達コース」を開設しました。その後、本郷中学体育館の2階の会議室を利用した本中日曜教室（2005年4月 入門・初級）と桂台日曜教室（入門・初級）、2006年4月には豊田地区センターを拠点とする豊田水曜教室（上達）及び日曜教室（入門・初級）、同年10月には上郷地区センターを拠点とする上郷金曜教室（上達）が次々に開校しました。

2009年（平成21年）10月杉浦次利氏が第3代囲碁普及会会長に就任しました。同氏は、特に初級者に対する指導に熱心で自ら初級者用のテキスト作成を指揮したり、11級以下の子供を対象とする「アミー碁の会」（ザルより粗いという意味と仲間という意味のアミーゴを合成）を作ったりして底辺の拡大に貢献しました。

2010年4月に上郷日曜教室（初級）が本小日曜教室を移籍する形で開校、2016年4月に本郷日曜教室（上達）が開校し、3つの地区センターと本郷中学の4か所

で8教室が活動することとなり、現在の姿となっています。今振り返ってみれば、囲碁教室を開校したことそしてその対象を「子供達」から「年齢を問わず誰にでも」に広げたことが、その後「囲碁王国栄区」と自負するまでになった原点と言っても過言ではないと思います。

2015年（平成27年）4月に第4代普及会会長には栄区囲碁連盟の幹事を長く勤め普及会をスタートから支えてきた牧野博氏が就任しました。

### 3) 級位認定大会で初段をめざせ（そして後進の指導を）

囲碁教室のインストラクターは、発足当初は普及活動に協力したいとして入会した会員だけでしたが、教室の数が増えるに従い人材不足となってきました。入門・初級者を指導するには必ずしも囲碁が強いという必要はなく、むしろ情熱と忍耐力こそが肝要です。そこで目を付けたのが上達コースの卒業生でした。年数回行われる級位認定大会で初段と認定されて卒業していく受講者全員に声をかけてインストラクターとして後進の指導を依頼しました。その結果快く引き受けてくれる人が多く、インストラクターの数は年々増加していくようになりました。インストラクターが増えれば教室も増やせて生徒も増やせる、卒業生が増えればインストラクターの数も増やせるという好循環が栄区の囲碁界の底辺拡大に大きく貢献したものと信じています。

### 4) こどもを中心としたイベント

- ・上郷せせらぎ交流会（現三代交流会）：2002年（平成14年）11月旧上郷高校（現横浜栄高校）の囲碁講座に市田勝一氏・鶴田郁夫氏・道休俊和氏が講師として参加し、現在まで続いています。
- ・栄こどもとおとなの囲碁大会：2004年（平成16年）7月 第1回大会を栄公会堂で開催、68人が参加しました。第3回大会より開催日を「海の日」（7月第3日曜日）としました。第7回（2008年7月18日）より鎌倉子供囲碁教室からも子供たちが参加し、鎌倉との交流は現在も続いています。
- ・鎌倉子供囲碁大会（鎌倉市長杯争奪）：2010年（平成22年）2月22日に行われ、栄区から26人の小中学生が参加し、以来現在まで続いています。
- ・創立15周年記念事業の一環としての囲碁教室

2016年（平成28年）は普及会創立15周年を迎え、その一環として区内の4学校でプロ棋士を迎えて囲碁教室を開催しました。

「豊田小学校はまっ子囲碁教室」：8月19日 有村比呂司八段を迎え、1年生から5年生までの児童26名が参加して開催

「飯島小学校キッズクラブ囲碁教室」：10月17日 有村比呂司八段を迎え、児童30名が参加して開催

「本郷小学校ふれあいフェスティバル」：11月19日 桂篤五段を迎え、囲碁教室を1年生から6年生まで32名が参加して開催

「三世代地域交流」囲碁体験教室：平成 14 年から続いている交流会に小山竜吾六段を招いて体験教室として参加し、インストラクター15名生徒・保護者 25 名が受講

## 5) 情報誌「さかえの石音」の発刊

2001 年（平成 13 年）9 月、「脳のジョギングロードへの誘い」というタイトルで小学校や親子教室における子供たちへの普及活動を伝える会員情報紙が発行されました。第 1 号の編集委員長は植田米男氏で委員として橋本侃氏・酒井功氏・道休俊和氏・臼井道雄氏・杉浦次利氏・山田伊佐男氏などが加わっていました。2006 年（平成 18 年）2 月号からタイトル名を「さかえの石音」と変え、編集方針・体裁を一新しました。2008 年（平成 20 年）から編集委員長が道休俊和氏に替わり、2010 年（平成 22 年）6 月発行の第 10 号から懸案であった全面カラー刷りが実現しました。

現在は、栄区囲碁連盟・日本棋院横浜栄支部・楽碁会の協力も仰ぎ、栄区囲碁関連 4 団体の活動を万遍なく取り込み、栄区在住の囲碁ファンに送る囲碁情報紙として、また栄区の活動を外部に発信する広報紙として活用されています。現在の編集体制は、発行者＝牧野博（囲碁普及会会長）、編集委員＝道休俊和、渡辺紘、佐藤中勇、山中正巳、興野富男、小田武史、三浦武久、宮川誠の方々です。

## 6) ホームページの開設

囲碁普及会々員である谷淵邦彦氏の発案で準備が進められていた、囲碁普及会のホームページは幹事会での承認を得て、HP 委員会（杉浦・小田・三箇・谷淵・山中・牧野）が設立され、平成 26 年 5 月開設されました。イベントの情報もいち早く取り上げられ、教室で使用する問題集、リンクによるプロ棋士の棋譜を見る事もできます。

アクセスは年々増えており外部からの問合せや教室受講の申込みも増えています。

## 7) 教室で学ぶ子供達の「保護者の会（いちごの会）」設立

子供達への囲碁普及活動を進めて行くうえで、保護者の理解が欠かせないものと判断して、保護者と教室インストラクター（子供への普及担当・田中建一氏を中心に肥塚淳次・道休俊和・牧野博各氏ら）で構成する会を平成 29 年 4 月に立ち上げました。

保護者の会が発行する「いちご通信」を通し、普及活動を推進します。



### 3. 囲碁普及会囲碁教室を卒業した人達のために

#### 1) 「楽碁会」をつくる

当初普及会の囲碁教室は1期6か月・2期限度（子供は除く）でした。第1期生が卒業した2005年（平成17年）頃、卒業後も楽しく囲碁が打てる場が欲しいと希望する卒業生が多く、有志が集まり検討した結果出来たのが「楽碁会」です。初代会長には教室の第1期卒業生である高橋利夫氏が就任し、2006年（平成18年）3月11日に本郷地区センターで創立記念大会が開催されました。会員の増加に伴い翌2006年10月に上郷地区センターが新設されるやいなや、本郷部会から分派する形で上郷部会が設立され、また2008年10月には豊田地区の人達の便宜を図るため、本郷部会から数名が移転し豊田地区センターを活動拠点とする豊田部会が設立されました。

その後も会員数が増え続けた楽碁会は栄区の囲碁団体の中で最大の組織となり、2015年（平成27年）4月18日に創立10周年を迎え記念行事を開催致しました。この様に活況を呈するのは嬉しいことですが、反面会場確保が次第に困難となり、遂に本郷部会では2015年（平成27年）に定員制（90名）を採用せざるを得なくなりました。また、2016年12月3日開催の第10回3部会合同囲碁大会では会場の都合もあり、初めて定員制（100名）を採用致しました。まさに嬉しい悲鳴です。

#### 2) アドヴァンスト囲碁スクールを開校

楽碁会の設立と同じころ、囲碁普及会関口会長より本郷台囲碁クラブ（須賀義夫氏が経営していた碁会所を引き継いだ高段者達の囲碁クラブ）に対し、囲碁普及会の卒業生でより高段を目指したい志を持つ人が学べる教室を開いて欲しいとの働きかけがありました。同倶楽部代表の肥塚淳次氏と計倉英秋氏が中心となって検討した結果、少数精鋭（講師2人で生徒は最大6人まで）で有段者としての基礎の系統的な学習と実践を学ぶ学校を作る事とし、「アドヴァンスト囲碁スクール」と名付けました。

開校年は2006年（平成18年）4月で、講師は肥塚淳次六段・栗林武麿六段・計倉英秋六段・三枝六段（後三間修司六段に交代）で、生徒は小学生を含む4人でスタートしました。教材は松本泰男編の有段者基礎講座を中心に使用することとしました。開校以来今年で12年目を迎えますが卒業生は延100名以上となり、現在栄区の囲碁界で活躍している山中正巳氏（囲碁普及会副会長及び日本棋院横浜栄支部副支部長）・青井茂樹氏（同）・小田武史氏（囲碁普及会幹事兼囲碁連盟幹事）もこのスクールの卒業生です。また、栄光学園高校の囲碁部で活躍している安藤俊介さんも小学校3年から5年までこのスクールで学びました。

## 4. 日本棋院横浜栄支部を設立

### 1) 日本棋院公認の認定大会を地元で開催したい

栄区囲碁普及会が囲碁教室を開始し、年数回認定会が開催されて段級位が認定されるようになり、更に楽碁会で研鑽を積むようになった人達が次に願ったのが日本棋院の発行する免状を取得することでした。特に初段の免状を得ることは囲碁教室で学んできた級位者にとっては憧れの的でもありました。しかしながら、横浜市最南端に位置する栄区から日本棋院のある市ヶ谷に出かけていくには可成りの距離があり、つい億劫になってしまいます。そこで囲碁普及会の関口会長を中心に、地元でも日本棋院公認の認定会を開催して日本棋院の免状が取得できるように出来ないか検討を始めました。

そして2007年(平成19年)8月、関口正俊(囲碁普及会々長)、植田米男(囲碁普及会副会長)、肥塚淳次(本郷台囲碁クラブ代表)、佐野嘉男(囲碁連盟会長)の4氏が発起人となり横浜栄支部設立総会が開催され、同年10月1日日本棋院より「日本棋院横浜栄支部」が認可されました。設立時の会員数は51名で、初代支部長に肥塚淳次氏が幹事長に植田米男氏が就任しました。そして同年12月に第1回の認定会が開催され(24名参加)、日本棋院より熊丰六段と万波奈穂初段が派遣されて大会に華を添えて頂きました。

### 2) 日本棋院とのパイプをより太く

その後、植田幹事長が豊富な人脈を頼って会員増に努め、また他の役員(囲碁普及会との兼務が多い)の協力もあって2008年=75名、2009年=106名、2010年=135名(会員増全国ベスト2で表彰)、2011年=158名(会員増全国ベスト5で表彰)と順調に会員数を増加させました。続く2012年(平成24年)3月には会員増全国ベスト2・会員数全国ベスト8で表彰されるという目覚ましい発展を遂げました。会員数が10位内・会員増10位以内に入れば日本棋院の報奨制度によりプロ棋士夫々2名が派遣されることになっているので、2012年(平成24年)7月1日に行われた設立5周年記念ペア碁大会には熊丰六段と洪沢真知子初段が、また同年12月23日に行われた認定大会には、黒滝正憲七段と新海洋子五段のプロ棋士が派遣され、その後毎年4名のプロ棋士が派遣され今日に至っております。

会員数が増えれば、プロ棋士の派遣だけではなく日本棋院より支部に対して普及協力金が支給されるので、支部の活動資金を会員より徴収することなく支部活動が円滑に運営されるようになっていきました。また、会費納入に関する事務連絡や棋士派遣の人選などについて植田幹事長が日本棋院普及指導部職員との接触機会が増えたこと、毎年開催される日本棋院の活動報告会において2009年(平成21年)3月に肥塚支部長が普及活動賞を受賞し、その後毎年副支部長が受賞を続けるなどにより、日本棋院とのパイプが年々太くなっていきました。

### 3) そして会員数は全国 2 位に

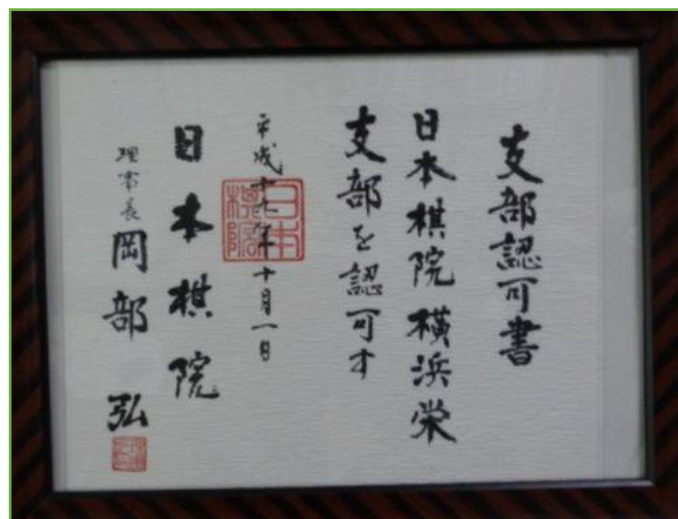
2013 年（平成 25 年）年 10 月に肥塚支部長が退任し、佐野嘉男氏が第 2 代支部長に就任しました。その後も毎年会員ポイント数（表彰の基準が会員数からポイント数に変更された）が全国 2 位・会員増ベスト 10 以内という実績を残し続けて、2017 年（平成 29 年）度実績の基準となる 2016 年（平成 28 年）9 月 30 日現在の実績は、会員数 230 名（877 ポイント・全国第 2 位）・会員数増 14 名（同 7 位）となりましたので、2017 年（平成 29 年）度もプロ棋士 4 名が派遣されることとなりました。

日本全国の日本棋院会員が減っていく中で、横浜栄支部がたった 10 年の間にこれだけ急速に会員数を増やし続けたことに、支部が所属する日本棋院神奈川県本部はもちろん日本棋院も驚異の目を見張っていますが、前述の通り 30 年前に創立された栄区囲碁連盟に端を発した栄区の囲碁ファンが全員ボランティアで囲碁普及会や楽碁会という組織を支え、県囲碁連盟や県本部などが主催するイベントにも積極的に参加するなどの実績を積み重ねてきた結果であることを強調しておきたいと思います。特に自分が囲碁を楽しむことは勿論ですが、仲間と一緒に組織運営や行事を盛り上げる事が何より楽しいとする人材が豊富に存在していることは特筆に値します。

### 4) 沢山のプロ棋士を招聘

プロ棋士の指導碁や大盤解説また懇親会での懇談は会員にとって最高の楽しみであり、支部会員に入会するインセンティブにもなっています。

横浜市栄区にはこれまで沢山のプロ棋士が派遣されてきましたが、記録と記憶に残っているだけでも 34 人（延 67 回）派遣されてきています。中でも、女流棋士が 18 人（延 24 回）派遣されていることが目を引きます。会員にとって何よりのインセンティブです。（資料編をご参照下さい）



横浜栄支部認可書

## 5. 国際交流囲碁大会

### <在日外国人による国際交流囲碁大会>

平成2年の7月頃、日本棋院普及指導員で神奈川県国際交流協会理事でもあった関口正俊氏と囲碁連盟会長の市田勝一氏の発案で、在日外国人との交流囲碁大会を開催しようという計画が持ち上がりました。

日本側は栄碁クラブと棋楽会（本郷台自治会）の有志が参加することし、2002年（平成14年）8月23日に下記メンバーによる第1回実行委員会が「あーすブラザ」で開催されました。

#### 記

実行委員長	市田 勝一	日本	栄区囲碁連盟会長
副委員長	温 耀権	中国	横浜華僑総会事務局長
	黄 水益	台湾	台北駐日経済文化代表処横浜文処秘書
	安 東明	韓国	在日大韓民国民団 地方本部事務局長
	崔 東明	朝鮮	朝鮮神奈川囲碁協会会長
	橋本 伸也		神奈川県国際交流協会副会長
	中西 正也		栄碁クラブ会長
	佐野 嘉男		棋楽会会長
事務局長	関口 正俊		神奈川県国際交流協会理事

### 第1回の大会は

主催：在日外国人国際交流囲碁大会実行委員会

共催：財団法人神奈川県国際交流協会

後援：日本棋院及び栄区囲碁連盟

という形で、2002年（平成14年）9月15日(日)に行われました。

各国10名の団体戦で行われる予定でしたが、台湾チームはメンバーが揃わず不参加となり4か国によるリーグ戦となり、朝鮮チームが優勝しました。

### 第2回大会

2003年(平成15年)9月14日(日)に開催され、参加チームは中国・韓国・朝鮮・日本3チーム（囲碁連盟・栄碁クラブ・棋楽会）の6チーム（各チーム10名）で、審判長として日本棋院棋士鈴木伊佐男七段が派遣されました。

### 第3回大会

今回から大会の名前が「地球市民国際交流囲碁大会」と変わり、“後援”に栄区囲碁普及会と栄碁クラブが加わり、2004年（平成16年）9月20日（祭）に開催されました。台湾チームが本国から訪日囲碁団を結成して参加、朝鮮・中国・韓国・日本・台湾の5か国の参加となりました。台湾チーム代表の熊波迪氏の子息である日本棋院棋士黄奕昀五段（現・熊丰六段）が台湾チームの通訳として参加し、大会を盛り上げて頂きました。また、台湾チームには子供4名が参加していたので、日本側も6名の子供を囲碁普及会の教室の中から選抜して、子ども大会を開催しました。

#### 第4回大会

平成2005年(平成17年)9月19日(祭)に各国をAとBの2グループに分けて行われ、日本棋院より王唯任四段が審判長として派遣されました。

日本チームのメンバーは以下の通りでした。

A：秦奎四郎七段・栗林武麿六段・野口猛彦六段・計倉英秋五段・佐野嘉男五段・新藤昭二四段・久保発喜四段

B：牧野博二段・古川勇二段・藤田亨初段・成田直樹初段・千速哲1級・飯塚幸男2級・安田テイ子5級

Aは中国チームがBは朝鮮チームが優勝しました。

#### 第5回大会

2006年(平成18年)9月18日(祭)に行われました。

韓国と朝鮮が合同チームを結成し、 코리아Aと 코리아Bという名前で参加しました。母国では政治的に対立している両国ですが、栄区では囲碁という媒体を介して両国の交流が実現し、話題となりました。審判長は通訳も兼ねて熊丰六段にお願いしました。また、事務局は日本側のみで担当し、事務局長=関口正俊、副事務局長=杉浦次利(日本)、事務局員=細田真由美(国際交流協会)・中村光良(囲碁連盟)・植田米男(栄碁クラブ)・道休俊和(囲碁普及会)でした。

#### 第6回大会

2007年(平成19年)9月24日(祭)に行う予定でしたが、在日外国人チームが経費負担の問題やメンバー確保が困難などの理由から参加が難しくなり中止としました。ここに5年間いろいろな話題で盛り上がったユニークな国際交流囲碁大会も終焉のときを迎えました。

今振り返れば、この大会が契機となって次の項で話題にする海外遠征に、そして海外遠征が台湾の熊丰六段ご一家との交流に繋がった訳で、この大会が栄区の囲碁界を盛り上げる原点の一つであったと言っても過言ではありません。

#### 【日台交流子供囲碁大会】



言葉は通じないけど、熱戦は続く



戦い終わって仲良く昼食タイム

## 6. 海外遠征

### ① 台湾遠征

前述のとおり、国際交流囲碁大会に於いて台湾チームが在日の方では編成出来ない事情が分かったので、現地を視察して現地からの囲碁団を招聘しようという企画が持ち上がり、台湾駐日代表部横浜分室に掛け合い紹介先を探してもらいました。

2003年（平成15年）11月29日～12月2日の日程で台北にある「熊老師団」を訪問しました。代表の熊波迪氏は「中華民国囲碁協会」の理事で「熊老師団囲碁有限公司」という囲碁教室（学校）を経営しており、多数のインストラクターの指導で大勢の子供たちが囲碁（台湾では「囲碁」という）を学んでいました。奥さん（熊豊六段の実母）の簡麗華さんは、「中華民国囲碁協会」の常務理事であり台北囲碁教育推廣中心の役員も務める大変社交的な女性で、我々訪台団を熱烈歓迎して頂きました。懇親囲碁大会の終了後に日本から帯同して行った栄区文化協会芸能部会の原田直真紗さん（民謡）と松井幸洋氏（津軽三味線）が中心となって日台交流芸能大会が盛大に催され、台湾チームも芸達者が多く大変盛り上がりました。

訪台メンバーは以下の10名でした。

市田勝一・伊藤渾春・佐野嘉男・関口正俊・高橋清・田中建一・道休俊和・矢沢功巳・原田直真紗・松井幸洋

### ② 韓国遠征

台湾遠征が成功裡に終了したので、次は韓国に遠征しようということになり、在日大韓国民団の紹介により2004年（平成16年）6月27日～30日にソウル郊外の城南市を訪問しました。メンバーは、飯塚幸夫・佐野嘉男・酒井巧・坂田保夫・関口正俊・新藤昭二・高橋清・田中建一・道休俊和・計倉英秋の10名でした。プロの世界では既に日本を凌駕していた韓国ですが、一般市民は日本と変わりなく各地にある碁会所で囲碁を楽しんでいました。我々を乗せたタクシーの運転手も囲碁好きで、自分の行きつけの碁会所に我々を案内するなど思わぬ日韓交流が実現しました。

### ③ 中国遠征

2004年（平成16年）12月5日～9日北京を訪問し、日本の華僑総会より紹介された地元チームと対戦しました。参加者は、飯塚幸夫・漆原武・佐野嘉男・関口正俊・高橋清・田中建一・道休俊和・新田豊の8名でした。

北京オリンピックを4年後に控え、各地でブルトナーが唸りを挙げていましたが、取り壊される運命にあった紫禁城横の地元住民しか入らない古い町並みを関口氏の案内で探索し、信じられないほど安い昼食（おかゆ）や揚げパンを更に値切って食べたのも懐かしい思い出です。

#### ④ハワイ遠征

2006年(平成18年)2月3日～8日ハワイ島旅行に随行

2003年の台湾遠征に応援団として同道した文化協会の民謡師範原田直真紗さんと津軽三味線の松井幸洋さんが、民謡のお弟子さん数名を帯同してハワイ島ヒロの郊外にある町で開催される「ワイメア桜まつり」に出演するという情報を得て、ハワイの囲碁事情視察する目的で田中建一氏と佐野嘉男氏が参加させてもらいました。ヒロは戦前の日本の習慣を現在の日本よりも色濃く残している街ですが、残念ながら囲碁を楽しむ人は皆無でした。ハワイ在住の原田さんのお弟子さんから、オアフ島に囲碁が好きな日系人が居ると聞いてホノルルに向かい、パロロ本願寺の住職西脇誠五郎氏にお目にかかりました。同氏は、長岡のご出身で定年退職してから乞われてハワイ東本願寺の住職となった経歴の持ち主(生家が浄土真宗のお寺)で、ハワイの囲碁好きは皆この寺にやってきて囲碁を楽しんでおり、ご自身は日本棋院五段で「日本棋院ハワイ支部」の支部長だということでした。

横浜市栄区とハワイの囲碁対抗戦を申し込んだところ“望むところ”という返事を頂きましたが、あれから長い月日が経過してしまいました。

#### ⑤第2次台湾遠征

2012年(平成24年)3月12日～15日

植田米男・佐野嘉男・塩月安朗・関口正俊・村田憲司・田中建一・中西忠行・平山松司、オブザーバー2名合計10名でした。

2003年の最初の台湾訪問以来9年が経過しましたが、熊丰六段のご両親との久しぶりの交流や妹さんの熊衍昕さん(アマ高段者)との手合いも実現し前回と同様に心温まるおもてなしを受けて大変感激的な遠征でした。



台湾遠征：2003年11月29日～12月2日  
台北「熊老師團」による歓迎レセプション(11/30)

## 7. 神奈川県下の囲碁団体について

神奈川県下には二つの大きな囲碁団体がありました。一つが神奈川県囲碁連合会（会長＝野並豊：崎陽軒社長）で、もう一つが日本棋院神奈川県支部連合会（会長＝平山重松：横浜宇宙棋院支部長）です。この二つが2007年（平成19年）3月に大同団結して出来たのが神奈川県囲碁連盟で、初代会長は野並豊氏で2代目会長が現会長の平山重松氏です。

横浜栄支部は発足（2007年10月）の翌年に神奈川県支部連合会に入会し、肥塚淳次支部長が理事に就任しました。支部連合会は2016年に神奈川県本部となり、現在は佐野嘉男支部長が神奈川県本部理事、肥塚淳次氏が監事の任に当たっています。横浜栄支部の幹部が神奈川県本部の役員を務めることにより県下で活躍するリーダー達と交流する場が増え、また県下で開催されるイベントに積極的に参加することによって、栄区内の各組織の活動がより活性化されていくのを感じます。平成29年度の神奈川県本部の事業計画のうち栄支部が参加又は参加を予定しているイベントは次の通りです。

1. 県囲碁まつり（4月16日） 宇宙棋院・京浜川崎クラブ
2. 支部役員懇親囲碁界（6月5日及び11月15日）京浜川崎クラブ他
3. 女流アマ親善囲碁大会（7月23日） 宇宙棋院
4. 県支部対抗戦（30年1月28日） 宇宙棋院
5. 県都市対抗戦（30年3月18日） 平塚市内

神奈川県本部監事の肥塚淳次氏（前横浜栄支部長）から以下の感想文を寄せて頂きました。

『横浜栄支部は当時の山本正事務局長（現県本部副本部長）には何かとお世話になりましたが、最大の功績は栄区囲碁普及会を世にだしてくれたことです。山本さんは神奈川新聞の囲碁担当記者を兼務されていたので、第6回栄こどもとおとなの囲碁大会（2010年7月）の様子と栄区囲碁普及会のことが7月29日の神奈川新聞社会面に大きく報道されました。その見出しが「囲碁王国への厚い布石」でした。

それ以降私も「囲碁王国」の言葉を使うようになったと記憶しています。その記事以来栄区囲碁普及会は外部へも目を向けるようになったと考えています。余談になりますが、記事が社会面に掲載されるのは破格のことで、山本さんも良い記事を書いたと神奈川新聞社から表彰されたと聞いています。山本さんの跡を継いだ大森広文さんも多くの大会に好意的に取材に来て頂き、棋譜を神奈川新聞の囲碁欄に掲載してくれました。これらは、栄区囲碁王国の発展に欠く事も出来ないエポックと考えています』



## 8. おわりに

囲碁王国を目指す横浜市栄区の 30 年の足跡を振り返ってきました。そこで思い起こしたのは、2009 年に放映された NHK 大河ドラマ「天地人」です。上杉景勝を支えて戦国の世を乗り切った直江兼続の一生を描いた歴史物語ですが、栄区の囲碁界も 30 年を一区切りとして振り返れば、ドラマと同じように「天の時」・「地の利」・「人の輪」に恵まれたことを実感します。

### 「天の時」

30 年前栄区が戸塚区から分区して誕生したとき、栄区の囲碁の世界は全くの白紙でした。その白紙の上に囲碁連盟を作ろうとした発起人の皆様のご苦勞は前述の通りですが、何の制約もない白紙だからこそ自由に絵を描けたと思うとそのメリットは大きいと思います。正に天の時です。

### 「地の利」

栄区は横浜市の中で西区に次いで 2 番目に小さな区です。しかし、小さいからこそ全体が一つにまとまる事が出来たと思います。土地が広くて多様な価値観を持つ住民が散在していれば、組織を一つに纏めることなど至難の業です。そう思うと小さい栄区は“地の利”そのものだったのかも知れません。

### 「人の輪」

栄区は 1970 年代に山を切り崩して宅地開発化した地域が大部分で、そこに住んだ住民の多くはサラリーマンです。

囲碁連盟→囲碁普及会→楽碁会→日本棋院横浜栄支部と必要に応じて次々に組織や制度を作っていくことができたのも、組織になじむことに慣れた多様な能力を持つ人達が一つの輪になれたことが大きな要因です。

然しながら、これまでの 30 年間で作り上げてきた「囲碁王国」にも悩みもあります。この王国を作り支えてきた人達の高齢化と組織の巨大化です。ここまでは個人の能力や個性で組織を引っ張って来た部分が可成り大きかったと思いますが、その方々の高齢化と組織が巨大化してきたことを考えると、これからはより効率的かつ組織的な指導・管理体制しか無いように思えます。これまで築いてきた囲碁王国をこれからも支え続け、更に発展させて行ける方策をみんなで考えていきましょう。

## < 資料編 >

1. 「囲碁王国」30年のあゆみ	・・・	1
2. 歴史を繋いできた人達		
・ 栄区囲碁連盟役員の変遷	・・・	2
・ 栄区囲碁普及会役員の変遷	・・・	4
・ 楽碁会役員の変遷	・・・	7
・ 日本棋院横浜栄支部役員の変遷	・・・	8
3. 栄区囲碁普及会の組織図	・・・	9
4. 栄区が招聘したプロ棋士	・・・	10
5. 神奈川県囲碁団体組織図	・・・	11
6. 山本正氏の神奈川新聞記事	・・・	12
7. 日本棋院横浜栄支部10年の活動記録	・・・	13

# 「囲碁王国」30年のあゆみ

		1987	1991	1995	1999	2001	2004	2005	2006	2007	2013	2015	2017
栄区囲碁連盟		1987・6											
		発足											
栄区 囲碁 普及 会	はまっ子・クラブ活動					2001・10							
	・キッズクラブ					普及会設立							
	栄こどもとおとなの囲碁大会						2004・7						
							第1回大会						第10回大会
	本郷教室						2004・10						
							開設						
	本中教室							2005・4					
								開設					
豊田教室								2006・4					
								開設					
上郷教室								2006・10					
								開設					
アドヴァンスト囲碁スクール								2006・4					
								開校					
楽 碁 会	本郷部会							2006・3					
								開設					
	上郷部会								2006・10				
								開設					
豊田部会								2006・10					
								開設					
日本棋院横浜栄支部									2007・10				
									設立				
国際交流囲碁大会							2002・7						
							開催						

## 栄区囲碁連盟役員の変遷

	会 長	副会長	幹事長	幹 事		会 計	監 査
1987	須賀義夫	安田重夫	秦奎四郎	関戸松雄	小宮山満	市田勝一	
				佐藤日出夫	大野 栄	木村陽弘	
1988	須賀義夫		秦奎四郎	中川	尾崎克幸	市田勝一	
				佐藤日出夫	大野 栄	木村陽弘	
1989	須賀義夫		秦奎四郎	中川	佐藤光一	市田勝一	
				佐藤日出夫	大野 栄	木村陽弘	
1990	須賀義夫		秦奎四郎	中川	佐藤光一	市田勝一	
				佐藤日出夫	大野 栄	木村陽弘	
1991・1992	須賀義夫	佐藤光一	秦奎四郎	中川	福田	市田勝一	
				佐藤日出夫	田中 正	木村陽弘	
				大野 栄	田宮		
1993・1994	須賀義夫	佐藤光一	秦奎四郎	中川	田中 正	市田勝一	
				大野 栄	佐野嘉男	佐藤日出夫	
				福田	村上		
1995・1996	須賀義夫	佐藤光一	秦奎四郎	大野 栄	佐野嘉男	田中 正	市田勝一
				田中 正			佐藤日出夫
1997・1998	須賀義夫	市田勝一	秦奎四郎	大野 栄	新藤昭二	田中 正	佐野嘉男
				田中 正	山本孟生		佐藤日出夫
1999・2000	須賀義夫	市田勝一	秦奎四郎	大野 栄	新藤昭二		佐野嘉男
				田中 正	山本孟生		佐藤日出夫

	会 長	副会長	幹事長	幹 事		会 計	監 査
2001・2002	市田勝一 (須賀義夫)	佐野嘉男	秦奎四郎	田中 正 大野 栄	牧野 博 山本孟生	田中 正	新藤昭二 安田テイ子
2003・2004	佐野嘉男 (市田勝一)	秦奎四郎	新藤昭二	牧野 博 栗林武麿	藤田 亨 羽田詞明	田中 正	久保発喜 安田テイ子
2005・2006	佐野嘉男 (市田勝一)	久保発喜	新藤昭二	牧野 博 栗林武麿 藤田 亨	計倉英秋 中村光良	安田テイ子	小林 仁 古川 勇
2007・2008	佐野嘉男 (市田勝一)	久保発喜	新藤昭二	牧野 博 栗林武麿 藤田 亨	計倉英秋 中村光良 三間修司	安田テイ子	木村弘利 片山 卓
2009・2010	久保発喜 (佐野嘉男)	新藤昭二	計倉英秋	牧野 博 栗林武麿 藤田 亨	中村光良 三間修司	安田テイ子	木村弘利 片山 卓
2011・2012	久保発喜 (新藤昭二)	三間修司	計倉英秋	牧野 博 栗林武麿 藤田 亨	滝澤 隆 小田武史 鈴木武弘	安田テイ子	佐藤尚司 中村光良
2013・2014	三間修司 (久保発喜)		計倉英秋	小田武史 佐藤尚司 込山光雄	滝澤 隆 藤田 剛 宇井光政	安田テイ子	鈴木武弘 牧野 博
2015・2016	三間修司 (久保発喜)		滝澤 隆	小田武史 佐藤尚司 込山光雄	藤田 剛 宇井光政 中澤國夫	向原真知子 安田テイ子	鈴木武弘 牧野 博
2017・2018	三間修司		滝澤 隆	小田武史 佐藤尚司 藤田 剛	宇井光政 中澤國夫 宮川 誠	向原真知子	鈴木武弘 牧野 博

( )は顧問

## 栄区囲碁普及会役員の変遷

	名誉会長	会 長	副会長	幹 事			会 計	監 査
2001		鶴田郁夫	市田勝一				鶴田郁夫	佐野嘉男
			関口正俊					
2003		関口正俊	植田米男	橋本 侃	安田テイ子		杉浦次利	市田勝一
			道休俊和	松井重暁				
			新藤昭二	臼井道雄				
2005		関口正俊	植田米男	橋本 侃	中村光良	横地正成	杉浦次利	村山喜三郎
			道休俊和	松井重暁	田中建一	伊藤正彦		
			新藤昭二	臼井道雄	立岡 章	藤田重雄		
	(佐野嘉男)			安田テイ子	国吉房成	酒井 巧		
2007		関口正俊	植田米男	橋本 侃	田中建一	横地正成	杉浦次利	村山喜三郎
			道休俊和	松井重暁	伊藤正彦	藤田重雄		
			臼井道雄	安田テイ子	山田伊佐男	中島史稜		
				肥塚淳次	坂田保夫	木村弘利		
	(佐野嘉男)			中村光良	牧野 博	酒井 巧		
2009	関口正俊	杉浦次利	植田米男	橋本 侃	山田伊佐男	小田武史	佐藤中勇	村山喜三郎
			横地正成	道休俊和	坂田保夫	山中正巳		
			中村光良	臼井道雄	牧野 博	岸川津弥子		
			石附輝己	肥塚淳次	藤田重雄	青井茂樹		
				田中建一	瀧本孝明	酒井 巧		
	(久保発喜)			伊藤正彦	中島史稜			
2011	関口正俊	杉浦次利	田中建一	橋本 侃	興野富男	岸川津弥子	佐藤中勇	石川 求
			植田米男	道休俊和	中村光良	村山喜三郎		
			青井茂樹	臼井道雄	酒井 巧			
			山中正巳	肥塚淳次	山田伊佐男			
			小田武史	生出二三明	牧野 博			
	(久保発喜)		石附輝己	伊藤正彦	坂田保夫			

( ) 顧問

	名誉会長	会長	副会長	幹事			会計	監査
2012	関口正俊	杉浦次利	田中建一	橋本 侃	興野富男	岸川津弥子	佐藤中勇	石川 求
			植田米男	道休俊和	中村光良	村山喜三郎		
			青井茂樹	臼井道雄	酒井 巧			
			山中正巳	肥塚淳次	山田伊佐男			
			小田武史	生出二三明	牧野 博			
	(久保尧喜)		石附輝己	伊藤正彦	坂田保夫			
2013	関口正俊	杉浦次利	田中建一	今井憲三	興野富男	岸川津弥子	三箇 豊	石川 求
			植田米男	伊藤正彦	坂田保夫	村山喜三郎		
			青井茂樹	臼井道雄	酒井 巧	森安恒夫		
			山中正巳	川崎和幸	佐藤中勇	谷淵邦彦		
			小田武史	道休俊和	牧野 博	横澤裕彦		
	(久保尧喜)		石附輝己	中村光良	村田憲司	村田春海		
2014	関口正俊	杉浦次利	田中建一	今井憲三	興野富男	岸川津弥子	三箇 豊	石川 求
			植田米男	伊藤正彦	坂田保夫	村山喜三郎		
			青井茂樹	臼井道雄	酒井 巧	森安恒夫		
			山中正巳	川崎和幸	佐藤中勇	谷淵邦彦		
			小田武史	道休俊和	牧野 博	横澤裕彦		
	(久保尧喜)		石附輝己	中村光良	村田憲司	村田春海		
2015	関口正俊	牧野 博	田中建一	今岡哲也	岸川津弥子	村田春海	三箇 豊	今岡哲也
			植田米男	伊藤正彦	興野富男	渡辺 紘		
			青井茂樹	川崎和幸	坂田保夫	中澤國夫		
			山中正巳	飯田吾朗	道休俊和	三浦武久		
	(三間修司)		小田武史	肥塚淳次	中村光良			

( ) 顧問

	名誉会長	会長	副会長	幹事			会計	監査
2016	関口正俊	牧野 博	田中建一	今岡哲也	岸川津弥子	村田春海	三箇 豊	今岡哲也
			植田米男	伊藤正彦	興野富男	渡辺 紘		
			小田武史	川崎和幸	坂田保夫	中澤國夫		
			佐藤中勇	飯田吾朗	道休俊和	三浦武久		
			三箇 豊	肥塚淳次	中村光良	前野昌彦		
			青井茂樹	宮川 誠	中西和豊	杉田光弘		
	(三間修司)		山中正巳					
	(佐野嘉男)		森安恒夫					
2017		牧野 博	田中建一	阿部邦英	岸川津弥子	渡辺 紘	三箇 豊	杉田光弘
			植田米男	岡田克司	澤田珪子			
			今岡哲也	小田武史	中野 修			
			佐藤中勇	飯田吾朗	中村光良			
			三箇 豊	佐野武彦	三浦武久			
			青井茂樹	宮川 誠	前野昌彦			
	(三間修司)		山中正巳	道休俊和	中澤國夫			
	(佐野嘉男)		坂田保夫	間嶋照子	山崎正幸			

( )顧問



## 楽基会役員の変遷

### 本郷部会

	代表幹事	事務局	企画	会計	会計監査	運営委員	
2005	鎌倉 誠	高橋 利夫	福田 光雄	岸川津弥子	漆原 節子		
		嶋田 静子					
2006	高橋 利夫	福田 光雄	本室 久直	岸川津弥子	漆原 節子		
		嶋田 静子	森下 博				
2007	高橋 利夫	福田 光雄	本室 久直	田中 克久	桐谷伊佐子		
		済間雅子	森下 博				
2009	高橋 利夫	佐々木修平		福田 光雄	坂倉 節子	古池 俊明	槇島 純弘
		千葉 俊雄				萩尾 幸子	塩井健四郎
2010	福田 光雄	千葉 俊雄	佐々木修平	野田 稲夫	坂倉 節子	深田 勝子	芦澤 健一
		花田 吾朗	山田 文雄			田中 克久	
2011	福田 光雄	花田 吾朗	佐々木修平	野田 稲夫	坂倉 節子	芦澤 健一	今井 惟文
			山田 文雄			内野 明	
2012	北原 文男	杉田 光弘	藤田 剛	川崎 和幸	武藤 守慶		
		板島 久幸	河内 道明				
		興野 富男					
2014	北原 文男	杉田 光弘	藤田 剛	荒浪 惇	田島 芳伸	小谷 和雄	山下 信夫
		高橋 和良	松本 茂男				
		興野 富男					

### 上郷部会

	代表幹事	事務局		企画	会計	会計監査	
2006	高橋 利夫	武藤信幸	植田米男				
2007	松尾定二	武藤信幸	徳永 二				
2008	本田正明	越後谷隆	飯田吾朗				
2009	越後谷隆	松尾定二	千葉武弘	武藤信幸	飯田吾朗	木内明人	名畑 保
					川名敏晴		
2013	大場正之	荒井久男	寿山直樹		今岡哲也	安藤朝巳	
					檀上宗義		
2015	間世田三郎	小西貞人	石井兼政		岡田克司	中島義種	
					杉 佳久		

### 豊田部会

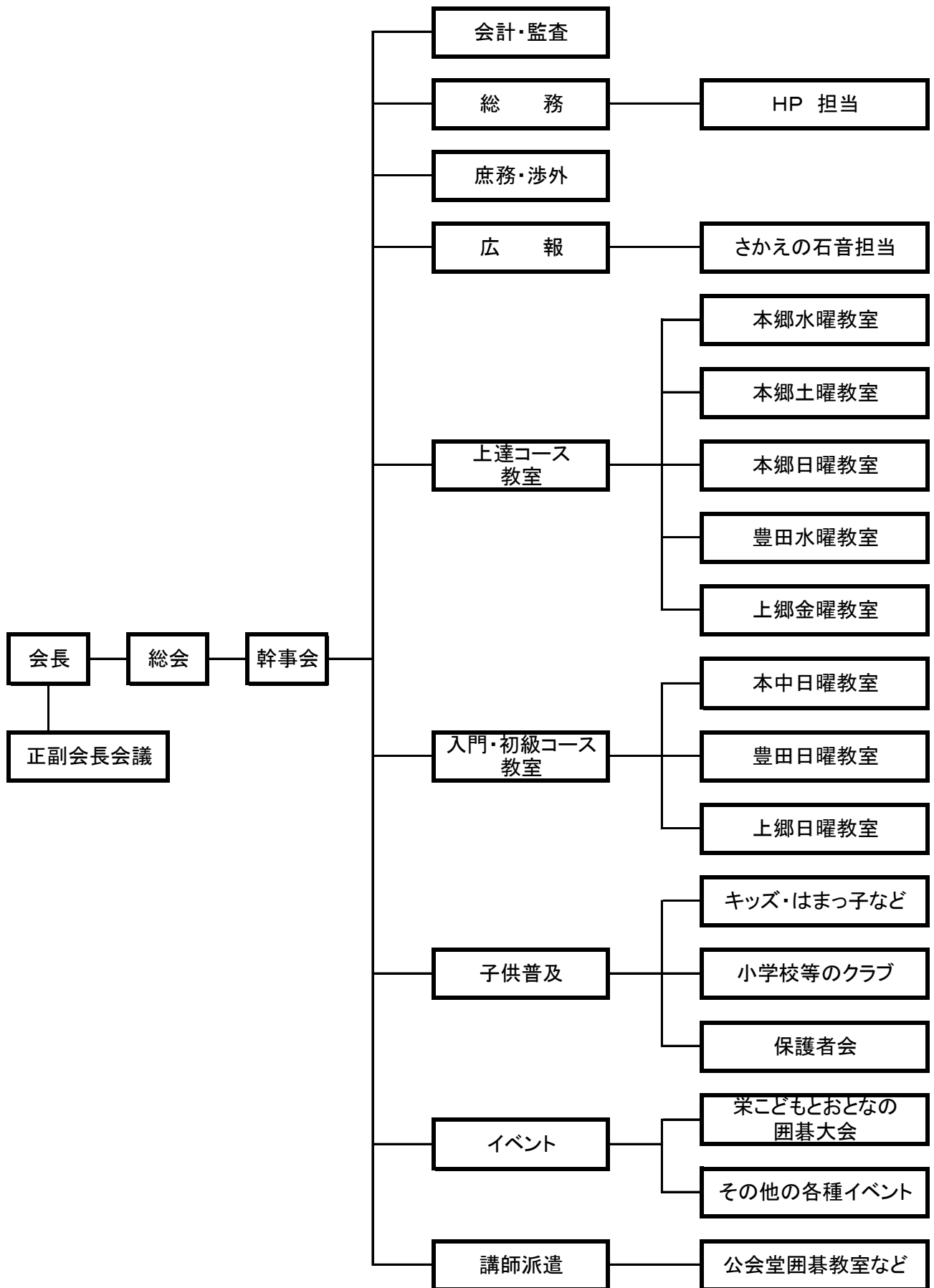
	代表幹事	幹事				飯島支部幹事	
2008	藤田重雄	坂田保夫	田中睦子	山岸幸男			
2010	須藤忠和	福島 収	生出二三郎	蒲田浩二郎	田中睦子		
		遠藤美子					
2012	森 靖男	鶏内成太郎	権正 茂	蒲生 仁		福島 収	中西和豊
2014	三村道夫	池田三男	神野奉臣	清水広中		中野 修	岩田繁雄
2016	北島耕一	堀田昭司	生方正臣	阿部信二		本間勲弘	

## 日本棋院横浜栄支部役員の変遷

	2007	2009	2011	2013	2015
支部長	肥塚 淳次	肥塚 淳次	肥塚 淳次	佐野 嘉男	佐野 嘉男
副支部長	道休 俊和	道休 俊和	坂田 保夫	臼井 道雄	坂田 保夫
	中西 正也	中西 正也	田中 建一	坂田 保夫	田中 建一
			石川 求	田中 建一	今岡 哲也
				石川 求	青井 茂樹
					北原 文男
					*山中 正巳
					石川 求
幹事長	植田 米男	植田 米男	植田 米男	植田 米男	植田 米男
幹事	中村 光良	田中 建一	道休 俊和	牧野 博	牧野 博
	臼井 道雄	山中 正巳	青井 茂樹	青井 茂樹	道休 俊和
	丸山 充夫	須藤 忠和	森 靖男	道休 俊和	藤田 剛
		小田 武史	小田 武史	藤田 剛	大場 正幸
		松尾 定二	花田 吾朗	森 靖男	森安 恒夫
		高橋 利夫	野田 稲夫	大場 正幸	中村 光良
		* 坂田 保夫		森安 恒夫	飯田 吾朗
		* 福島 収		中村 光良	谷淵 邦彦
				飯田 吾朗	三村 道夫
				村田 憲司	中野 修
					*北島 耕一
					*間世田三郎
					*三浦 武久
会計	植田米男(兼)	植田米男(兼)	今岡 哲也	今岡 哲也	今岡哲也(兼)
監査	杉浦 次利	佐藤 中勇	臼井 道雄	三箇 豊	三箇 豊
顧問	佐野 嘉男	佐野 嘉男	佐野 嘉男	肥塚 淳次	肥塚 淳次
	関口 正俊	関口 正俊	杉浦 次利	三間 修司	三間 修司
		杉浦 次利		杉浦 次利	

\* 印は期中に就任

# 栄区囲碁普及会組織図

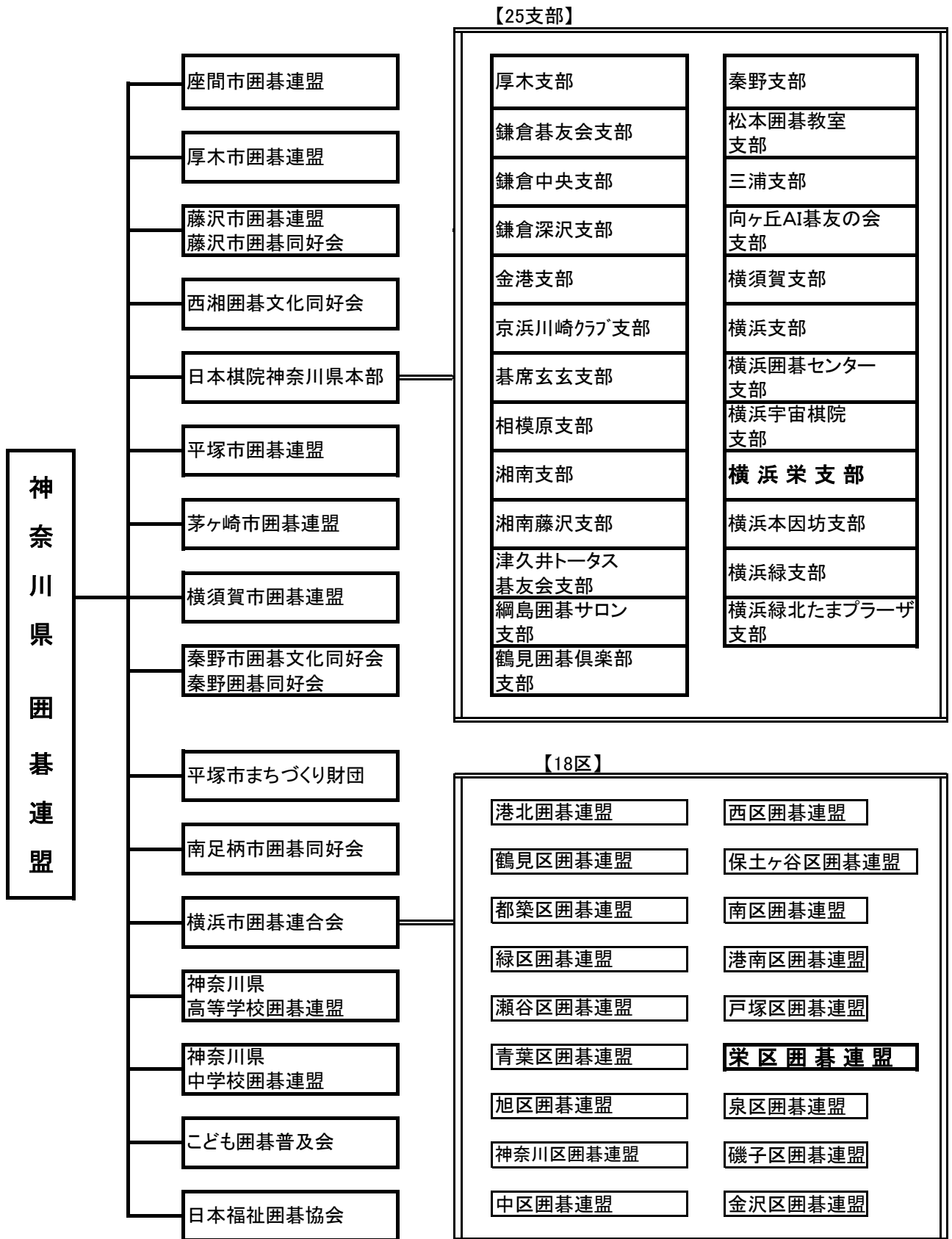


## 栄区が招聘したプロ棋士

	氏名	段位	年月	年月	年月	年月	年月
1	小山 鎮男	退八段	R 1990/				
2	上村 陽生	九段	R 2003/11				
3	鈴木 伊佐緒	七段	T 2003/9				
4	王 唯任	五段	T 2005/9				
5	矢代 久美子	六段	R 2005/11	S 2010/12			
6	熊 豊	六段	R 2006/11	R 2007/9	S 2007/12	R 2010/11	S 2010/12
			R 2011/11	S 2011/12	S 2012/7	R 2012/11	R 2013/11
			R 2014/11	R 2015/11	S 2016/9	R 2016/11	R 2017/11
7	万波 佳奈	四段	R 2007/9				
8	万波 菜穂	三段	S 2007/12				
9	信田 成仁	六段	S 2008/12				
10	岡 信光	退七段	S 2008/6	S 2008/9	R 2008/10	S 2009/1	S 2009/6
			S 2009/9	R 2009/11	S 2009/12	S 2011/6	
11	竹清 勇	四段	S 2008/12	S 2010/6			
12	敖 立婷	-	R 2008/10	R 2009/11			
13	甲田 明子	三段	S 2010/6				
14	下坂 美織	二段	R 2010/11				
15	王 景怡	二段	R 2011/11				
16	新海 洋子	五段	S 2011/12	S 2012/12	S 2014/12	S 2015/9	
17	三村 芳織	三段	R 2012/11				
18	渋澤真知子	初段	S 2012/7				
19	黒瀧 正憲	八段	S 2012/12	S 2013/6	S 2016/12		
20	金 艶	四段	S 2013/6				
21	井澤 秋乃	四段	R 2013/11				
22	井口 豊秀	八段	S 2014/9				
23	出口 万里子	初段	R 2014/11				
24	劔持 丈	八段	S 2014/12				
25	蘇 耀国	九段	S 2015/6	S 2016/6	S 2017/6	R 2017/6	T 2017/7
26	金子 真季	初段	R 2015/11	R 2016/11	R 2017/11		
27	水間 俊文	七段	T 2015/12				
28	小松 英子	四段	S 2015/12				
29	有村 比呂司	八段	T 2016/8	T 2016/10	S 2016/12	T 2017/9	
30	木部 夏生	二段	S 2016/9				
31	小山 竜吾	六段	T 2016/11	S 2017/9			
32	桂 篤	五段	T 2016/11				
33	長島 梢恵	二段	R 2017/6				
34	桑原 陽子	六段	T 2017/8				
35	小山 栄美	六段	T 2017/11				

・ ローマ字は招聘した団体（R=栄区囲碁連盟、S=日本棋院横浜栄支部、T=その他）

# 神奈川県囲碁団体組織図



横浜市栄区で囲碁の愛好者が増えている。その推進力となっているのが区内に住むアママ有段者の有志が集う「栄区囲碁普及会」(杉浦次利会長)だ。現在の登録会員は88人。一つの市区町村で、普及活動を目的にしたこれほど大規模な市民団体は「全国でもあまり例がない」と日本棋院普及事業部は驚く。(山本 正)

## 愛好者増へ活躍

# 囲碁王国へ 厚い布石

を一人でも多くの人に教えたいというのが生きがいですね」と杉浦会長。

こうした活動の成果は着実に実り、区内の囲碁人口は近年大きく増えている。日本棋院横浜栄支部は、09年度に増加した会員数が全国2位の40人となり、ことし3月、日本棋院から表彰された。

年2回行われる横浜市各区対抗戦の区民大会では、級位者を対象としたC・Dクラスの出場者が少なく頭を痛めている区が多いが、栄区は毎回40～50人が参加し盛況だ。

7月19日には、栄区の普

父親と一緒に参加した額谷通晃君(5級、横浜市立桜井小6年)は、小学1年ごろに学校のキッズクラブで普及会のインストラクターから碁を教わり「面白そうなので教室に通うようになった」という。石を取るのが楽しい。お父さんにはいつも勝っています」と話していた。

審判長を務めた日本棋院横浜栄支部長の肥塚淳次さんは「これからまだまだ参加者の増加が予想されますが、区内に大きな施設がないので弱っています」と笑う。

## 栄区普及会会員

普及会は、囲碁を通して子どもの心の育成やお年寄りの健康維持を図ろうと、2001年に設立された。会員たちは、年会費のほか交通費などの諸経費も自前というボランティア。区内の6小学校と、地区センターなどの公共施設7カ所を入門・初心者教室を開いている。定期的にカラ1版の会報「さかえの石音」を刊行し、教室で学ぶ子どもたちの楽しそうな様子などが報じられている。

「自分がただ楽しむだけでなく、囲碁の素晴らしさ

及会が毎年主催する「第6回栄区子どもとおとなの囲碁大会」が栄公会堂で開かれた。同区の在住・在学・在勤者と、普及会の教室で学んだ級位者が対象。棋力別4クラスに分かれて4回戦対局し、成績により棋力が認定されるが、役員を含めて100人が参加するにきわいぶり。女性十数人も交じり、3世代が交流する和やかな雰囲気でも熱戦が繰り広げられた。会場の隅所で、生徒の打ち碁を熱心に見守るインストラクターの姿が見られた。



園児から80歳まで、選手と役員を含めて約100人が参加した第6回栄区子どもとおとなの囲碁大会。19日、栄公会堂

# 日本棋院横浜栄支部10年の活動記録

1/2

日 時	項 目	備 考	会員数
2007年8月10日	横浜栄支部設立総会	発起人:関口正俊・植田米男・肥塚淳次・中西正也 道休俊和・佐野嘉男	
10月1日	日本棋院より支部設立認可	初代支部長に肥塚淳次氏が就任	43
12月23日	横浜栄支部結成記念大会	段級位認定大会 参加者24名 プロ棋士熊丰六段・万波菜穂初段を招聘	
2008年 4月1日	神奈川県支部連合会に加入		
6月29日	第2回段級位認定大会	大会参加者45名 プロ棋士岡信光七段を招聘	
10月1日	2008年度会員数確定	初めての会員登録となる	76
12月23日	第3回段級位認定大会	大会参加者62名 プロ棋士信田成仁六段を招聘	
2009年 3月	日本棋院より表彰	日本棋院より肥塚支部長が普及活動賞を受ける	
6月28日	第4回段級位認定大会	大会参加者52名 プロ棋士岡信光七段を招聘	
10月1日	2009年度会員数確定	会員数106名全国24位、会員増31名全国2位	106
12月23日	第5回段級位認定大会	大会参加者66名 プロ棋士岡信光七段を招聘	
2010年 3月	日本棋院より表彰	会員増名31名 全国2位 受賞	
6月27日	第6回段級位認定大会	大会参加者66名 プロ棋士武清勇四段・甲田明子三段 招聘、子供囲碁教室を同時開催子供18名参加	
10月1日	2010年度会員数確定	会員数135名全国12位、会員増29名全国5位	135
12月23日	第7回段級位認定大会	大会参加者68名 プロ棋士熊丰六段・矢代久美子六段 招聘、親子囲碁教室を同時開催 38名参加	
2011年 3月	日本棋院より表彰	会員増29名 全国 5位 受賞	
6月27日	第8回段級位認定大会	大会参加者52名 プロ棋士岡信光七段を招聘 子供囲碁教室を同時開催 子供18名参加	
10月1日	2011年度会員数確定	会員数159名全国8位、会員増24名全国2位	159
12月23日	第9回段級位認定大会	大会参加者50名 プロ棋士熊丰六段・新海洋子五段を招聘	
2012年 3月	日本棋院より表彰	会員数159名全国 8位、会員増24名全国 2位 W受賞 植田米男幹事長が普及活動賞を受賞	
7月1日	横浜栄支部設立5周年 記念の集い	連碁(5名・6組)、ペア碁(16組)、プロ棋士熊丰六段 ・同洪澤真知子初段を招聘、指導碁、級位者向け囲碁 講座を同時開催 参加者107名	
10月1日	2012年度会員数確定	会員数180名(640p)全国5位、会員増22名全国 4位	180
12月24日	第10回段級位認定大会	大会参加者66名 プロ棋士黒瀧正憲八段・新海洋子五段を招聘	
2013年 3月	日本棋院より表彰 (会員数 の評価がポイント制になる)	会員数180名(640p)全国5位、会員増22名全国 4位 W受賞	
6月27日	第11回段級位認定大会	大会参加者56名 プロ棋士黒瀧正憲八段・金艶四段を招聘	
9月16日	第2回ペア碁大会	大会参加者50人(25組)	
10月1日	2013年度会員数確定	会員数195名全国4位、会員増15名全国13位	195
11月16日	支部長交代	第2代支部長に佐野嘉男氏が就任	
12月23日	第12回段級位認定大会	大会参加者54名	

## 日本棋院横浜栄支部10年の活動記録

2/2

日 時	項 目	備 考	会員数
2014年3月	日本棋院より表彰	会員数195名(733p)全国4位	
		普及活動賞 佐野嘉男・坂田保夫	
6月15日	第13回段級位認定大会	大会参加者56名	
9月15日	第3回ペア碁大会	24組参加 プロ棋士井口豊秀八段を招聘	
10月1日	204年度会員数確定	会員数206名(781p)全国2位 会員増11名全国8位	206
12月23日	第14回段級位認定大会	大会参加者54名	
		プロ棋士劔持丈八段・新海洋子五段を招聘	
2015年3月	日本棋院より表彰	会員数206名(781p)全国2位、会員増11名全国8位	
		W受賞、普及活動賞 臼井道雄・石川求	
6月14日	第15回段級位認定大会	大会参加者54名 プロ棋士蘇耀国九段を招聘	
9月23日	囲碁フェスタ2015さかえ	ペア碁、指導碁、入門初級教室同時開催	
		プロ棋士新海洋子五段招聘	
10月1日	2015年度会員数確定	会員数216名(832p)全国2位、会員増10名全国10位	216
12月7日	本郷小学校ふれあいフェスティバル	囲碁教室にプロ棋士水間俊文七段招聘の仲介	
12月23日	第16回段級位認定大会	大会参加者56名 プロ棋士小松英子四段を招聘	
2016年3月	日本棋院より表彰	会員数216名(832p)全国2位、会員増10位 W受賞	
4月1日	日本棋院神奈川県本部発足	神奈川県支部連合会より神奈川県本部に移行 佐野嘉男氏が理事・肥塚淳次氏が監事に就任	
6月26日	第17回段級位認定大会	大会参加者60名 プロ棋士蘇耀国九段を招聘	
8月19日	豊田小学校夏休み囲碁教室	プロ棋士有村比呂司八段招聘の仲介	
9月22日	囲碁フェスタ2016さかえ	ペア碁・指導碁・囲碁講座	
		プロ棋士熊丰六段・木部夏生二段招聘	
10月1日	2016年度会員数	会員数230名全国2位、会員増14名全国7位	230
10月14日	飯島小学校放課後キッズクラブ	囲碁教室にプロ棋士有村比呂司八段招聘の仲介	
〃	本郷小学校ふれあいフェスティバル	囲碁教室にプロ棋士桂篤五段招聘の仲介	
12月10日	横浜栄高校三世代地域交流会	囲碁教室にプロ棋士小山竜吾六段招聘の仲介	
12月23日	第18回段級位認定大会	大会参加者66名 プロ棋士黒瀧正憲八段を招聘	
		プロ棋士黒瀧正憲八段・有村比呂司八段を招聘	
2017年3月	日本棋院より表彰	会員数230名(877p)全国2位、会員増14名全国7位	
		W受賞 普及活動賞 田中建一副支部長	
6月4日	第19回段級位認定大会	大会参加者60名 プロ棋士蘇耀国九段を招聘	
8月13日	豊田小学校 夏休み はまっ子フェスティバル	囲碁教室にプロ棋士桑原陽子六段招聘の仲介	
9月23日	囲碁フェスタ2017さかえ (10周年記念フェスティバル)	ペア碁・連碁・指導碁・囲碁講座	
		プロ棋士小山竜吾六段を招聘	
10月1日	2017年度会員数	会員数241名(883P)全国3位、会員増11名全国13位	241
10月19日	飯島小放課後キッズクラブ	囲碁教室にプロ棋士有村比呂司八段招聘の仲介	
11月9日	横浜栄高校三世代地域交流会	囲碁教室にプロ棋士小山栄美六段招聘の仲介	



## 栄区を訪れたプロ棋士の方々 ①

栄区の囲碁団体がここ 20 余年間に招聘したプロ棋士の方々は 30 名以上になる。  
その方々を紹介しておきたい。



小山鎮男・八段



上村陽生・九段



鈴木伊佐男・七段



王唯任・五段



信田成仁・六段



矢代久美子・六段



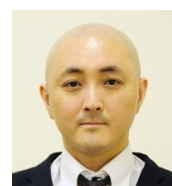
熊丰・六段



万波佳奈・四段



万波菜穂・三段



竹清勇・四段



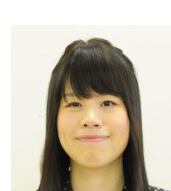
岡信光・七段



甲田明子・三段



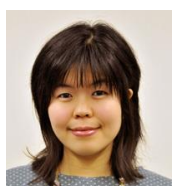
下坂美織・二段



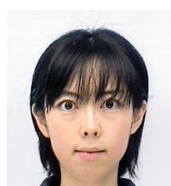
王景怡・二段



新海洋子・五段



三村芳織・三段



渋澤真知子・初段



黒瀧正憲・八段



金艶・四段



井澤秋乃・四段



井口豊秀・八段



出口万里子・初段



鈿持丈・八段



蘇耀国・九段

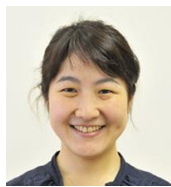


金子真季・初段

## 栄区を訪れたプロ棋士の方々 ②



小松英子・四段 水間俊文・七段 木部夏生・二段 小山竜吾・六段 有村比呂司・八段



桂篤・五段

長島梢恵・二段

桑原陽子・六段

敖立婷・棋士



### 入門教室

どの講師も笑顔を決やさず優しく丁寧に



小山竜吾・六段



矢代久美子・六段



新海洋子五段



桂篤五段



水間俊文七段



桑原陽子六段



有村比呂司八段

【写真②】

## 指導碁



王景恰・二段

井澤秋乃・四段



木部夏生・二段

蘇耀国・九段

小松英子・四段 (下段中央)

## 大盤解説



下坂美織・二段 (上段)  
黒瀧正憲・八段 (下段左)  
劔持 丈・八段 (下段右)

渋谷真知子・初段 (下段右)



## 懇親会



蘇耀国・九段 (左)



金艶・四段 (右)

# 栄区囲碁界の春夏秋冬

栄区は新春から年の暮れまで毎月の様に囲碁大会や入門教室が開かれ、園児から百歳近い高齢者まで男女を問わず囲碁を楽しんでいる、今日もどこかで石音が聞こえる街になっている。その一端を紹介する。

1月

新春は「地域交流囲碁会」で幕を開ける。  
和気あいあいと！



2月



子供達が「鎌倉子供囲碁大会」に遠征

3月



春季区民囲碁大会、男性のベテラン勢に交じって女性や子供達の参加も見られる。

囲碁教室では最後の認定会、修了式と続く

4月・5月



教室では講義が開始

楽碁会では定例部会や大会が



【写真④】

7月

栄区こどもとおとなの  
囲碁大会



6月

日本棋院横浜栄支部  
段級位認定大会



夏休み  
こども囲碁教室

8月



9月

秋季栄区民囲碁大会



9月

囲碁フェスタ・さかえ

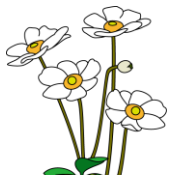
大会の中でペア碁を同時開催、またプロ棋士を招聘し指導碁や大盤解説など



11月

栄区民芸術祭  
囲碁まつり

子供から高齢者まで、級位者から高段者まで、プロ棋士を招聘し、囲碁を楽しむ



12月

日本棋院横浜栄支部  
段級位認定会

栄区の囲碁大会で1年を締めくくるプロ棋士を招聘しての認定大会。多くの挑戦者が新たな段級位に挑み、多くの棋士が参加、大会を盛り上げた。



# 栄区囲碁界の

## ニュースリーダー

# 「さかえの石音」

1 団体の情報紙としてスタートした「さかえの石音」はモノクロ版で発行された。この情報紙は10号からカラー版に衣替え、また栄区囲碁4団体の囲碁情報紙に生まれ変わった。

会報1号 平成18年2月12日

会報10号 平成22年6月14日 (初のカラー版)

**いま人気のペア囲碁に 生徒ど先生が初挑戦!**

いま、日本で生まれたペア囲碁が人気上昇中である。夫婦対決と高橋を呼んだペアプロブレイン選手権の優勝は2月4日に行われ、小林康生(栄区最勝会)・山下敬吾(九段)ペアが優勝した。また昨年の第16回国際アマペア選手権は、世界21ヶ国・地域から32組が出場、中国ペアが優勝した。

**【中1】の公開対局に 黄プロ五段が大盤解説**

『囲碁まつり』のもう一つの新しい試み、公開対局も話題を呼んだ。西本塾小学校はまことスクールで実力と伸びた、日本棋院で四段を認定された若きホープ、志原真誠君(中1)が対戦した日本棋院プロ、黄実功五段との対局が注目された。なお、『情報紙』に掲載された黄五段の出陣を報告しよう。

**【優勝した福田・松井ペア】**

栄区でも昨秋の最優勝『囲碁まつり』に、初めてのペア対局で、普及会会長の先生と先生が出陣し、挑戦を続けた。アマプロクワダは藤原誠一(一級)・牧野伸治(二級)、2位は原川洋子(一級)・福田真二(二級)ペア。プロクワダの優勝は藤田有咲(六級)・松井重隆(五級)ペア、2位は福田和樹(七級)・中島史枝(初級)ペアと、普及会会報関係者が大活躍。『相手だけでなくパートナーの手も読まないと勝てないで大事!』という声もあって、ペアの思いが一致し盛り上がった時の感動も大きかったようだ。

**Bクラスは大正生まれが上位を独占!**

●2010 栄区春の文化祭・囲碁大会(3月14日)・栄公会主催

北山栄区文化協会々長の挨拶で始まった今回は、囲碁普及会の発展を期して参加者113名の参加人数となった。棋風も各対抗戦、同級生代表の代表を選出することもあり出席者は熱戦を展開した。Bクラスは小山三段、野間二段等が正生五生の活躍が目立った。

**入賞者は以下の通り。**

クラス	優勝	準優勝	第3位
A	二宮正志	野間誠治	野間誠治
B	小山三段	野間誠治	野間誠治
C	高田和樹	大塚文隆	野間文隆
D	野間誠治	野間誠治	野間誠治

●第24回栄区シニア普及会大会(4月23日)・栄公会主催

「囲碁は脳のゲーム。いつまで若くして生きていくために必要不可欠なゲームです。山田シニア普及会々長の激励を受けて、参加者も各々が心に燃焼を開始した。

A(二級以上)、B(初級~2級)、C(4級~7級)の3クラスに分かれたが、全で全完、Cクラスにのみ参加者が多かった。優勝は高田和樹、準優勝は野間誠治、3位は野間誠治。

発行形態  
回数  
年3~4回  
体裁  
A4版  
表裏4ページ  
カラー版  
部数  
700部/1回  
別途特集号あり

会報26号 平成28年2月15日

会報31号と栄区囲碁普及会創立15周年記念号

**創立15周年を迎える栄区囲碁普及会**

●平成11年1月 囲碁普及会に心ある人達が集まり、栄区囲碁普及会を創設してから今年15年目を迎える。会員19名でスタートしたこの会も100名を超える会員が成長し、囲碁普及会を運営する多くの有志が「はなっ子」や「クラブ活動」にインストラクターを派遣、囲碁普及会に力を入れている。創立以来のメンバーの人である道徳後援、日本棋院普及部員は「会の設立当初の 道徳・指導員」に引き継ぎ、普及会の発展と活動に力を入れている。

●記念行事第一弾 表彰・表彰セットを贈呈  
記念行事の一環として栄区囲碁普及会が栄区は東区にある栄区センターに表彰セットを贈呈し、感謝の意を表した。

●さらに発展をめざして  
栄区囲碁普及会では記念行事の次のステップとして4月から本誌日曜コース教室の開設を計画しているとのこと、子供たちへの普及に役立ちたい。

●「日曜教室と出ることから生徒に子供たちが多くテキストや課題を子供たちに配布しなければと考えている。担当メンバーとスタッフを頼んでほしい」

●向原さん「勝負美人」に感謝  
おめでとう、栄区から全国へ、昨年行われた第3回全国アマプロ普及会(1~2日)に参加、全国から集まった24名の奥の奥の中で全勝優勝を飾り、テレビでもお披露目の戸崎さんと小川九段の対戦を受けた。

●7年栄区囲碁普及会を創設して喜んでいたが、栄区囲碁普及会と日本棋院普及部との皆さんに一緒に活動して打って進んでほしいと、向原真知子さんに感謝の意を述べた。

**栄区囲碁普及会創立15周年記念号**

●プロを招いて、「囲碁フェスタ2017」を大成功に開催し、満載の1日!

●創立15周年を記念して、今年創立15周年を迎えた。栄区19名の参加者、今年10月15日、この会を創設した。栄区100名を超える会員が成長し、囲碁普及会を運営する多くの有志が「はなっ子」や「クラブ活動」にインストラクターを派遣、囲碁普及会に力を入れている。

●創立15周年を記念して、今年創立15周年を迎えた。栄区19名の参加者、今年10月15日、この会を創設した。栄区100名を超える会員が成長し、囲碁普及会を運営する多くの有志が「はなっ子」や「クラブ活動」にインストラクターを派遣、囲碁普及会に力を入れている。

【写真⑦】

日本棋院横浜栄支部10周年記念  
「囲碁王国」30年の足跡

2017年11月28日 第3版 1刷 発行

発行 : 横浜栄支部10周年記念誌編集委員会  
発行者 : 佐野嘉男

〒247-0008 横浜市栄区本郷台 4-22-5

編集・印刷・製本: 横浜栄支部10周年記念誌編集委員会

編集委員: 委員長 佐野嘉男

委員 飯田吾朗

委員 今岡哲也

委員 植田米男

委員 小田武史

委員 道休俊和

委員 牧野 博

委員 山中正巳

(五十音順)